

F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

Withコロナの夏、いかがお過ごしですか？
今月はオリンピック開幕だったはず。すこし寂しいですが何とか来年は開催できるよう楽しみに待ちたいと思います。

私たち日本人はマスクには慣れていますが、真夏のマスクは初めての経験です。昨年の7月・8月の2か月間に熱中症で搬送されたのは53,186人、亡くなったのは103人でした（消防庁）。

エアコン利用時の換気、こまめな水分補給、「密」の度合による上手なマスクの着脱、などに気を付けて夏を乗り切りたいですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

年金法が5月に改正されたのはご存知ですか？
新しい制度を上手に利用することで老後のお金の不安が少し解消されるかもしれません。

企業健保コロナで収支悪化

5月13日の日本経済新聞に「企業健保、コロナ追い打ち---保険料支払い猶予で収支悪化 経済再開遅れで解散増の懸念も---」という記事が掲載されました。

コロナの影響で企業活動が停滞して保険料の猶予を受ける企業が出てきた。今後、景気が悪化すると猶予を受ける企業はさらに増える、仮に猶予は受けなくても保険料が減少することで健保組合の財政状況の悪化が予想される、ということが解説されていました。

コロナの影響がこんなところにも出てきているのですね。

コロナが終息して猶予していた保険料の支払いが始まれば元の安心できる健康保険に戻るなら良いのですが、実はコロナよりも深刻なのは2022年問題だと言われています。

2022年には団塊の世代（1947年-49年生まれ、3年間の出生数約800万人）が75歳にさしかかってきて介護費や医療費が急増すると言われています。国民一人当たり医療費は、65歳未満では18万円/年ですが、75歳以上になると91万円/年に急増します。

医療費や保険料の負担の在り方も変わっていく可能性が大きいかもしれませんね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

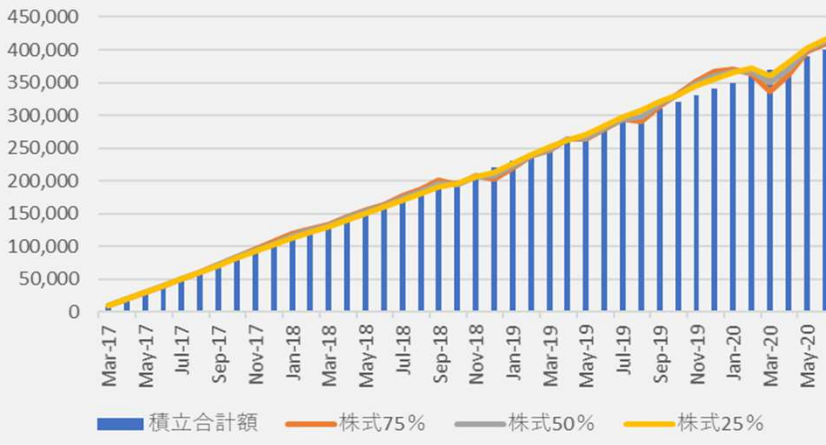
〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2020年4末	380,000	362,289	371,109	380,263
2020年5末	390,000	397,235	400,686	402,699
2020年6末	400,000	408,701	412,579	415,797

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

6月も株式市場は堅調に推移しました。

	日経平均	NYダウ	ドル円
5月末	21,877.89	25,383.11	107.77
6月末	22,288.14	25,812.88	107.92
	1.88%	1.69%	

6月のNYダウ平均株価は、8日に27,572ドルとコロナ前の高値29,551ドル（2/12）の93%まで値を戻しました。その後、第2波への懸念などから調整する動きとなりました。

株価に関しては大方の予想に反して急回復しましたが、最近よく出てくる言葉に、「株価と実体経済との乖離」があります。

実際に私たちの生活もまだまだいろいろな制約があると感じている方も多いのではないのでしょうか？

7月1日に発表された日銀短観でも、企業は先行きについて相当厳しく見ていることがわかります。

また、IMF（国際通貨基金）は先月、金融市場の動向に関する報告書の中で、「株価の上昇は各国主要中央銀行が行っている640兆円にも達する異例の金融緩和によるもので、景気の先行きに大きな不確実性がある中で株式市場と実体経済に乖離が生じている、とりわけアメリカと日本の株価が割高だ」指摘しています。

今後についてはコロナ終息への期待とこのような懸念が交錯し、時として大きく動くこともあると思います。しかしながら、短期的な値動きとそれを解説するニュースに惑わされずに積み立てを継続することが将来に向けての資産形成には大切だと考えています。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

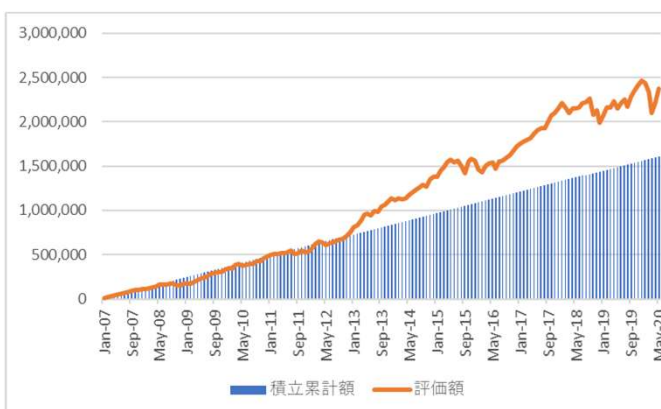
ここ数年で積立投資を始めた人の中には、こんな調子で本当に殖えるのか疑問に感じている方もいるかもしれません。

実際に、前ページのシミュレーションを見て、40か月も経過したのに少ししか増えていない、と感じるかもしれません。今月は、シミュレーションで使っているのと同じ商品をリーマンショックの直前から積立をしていた場合どうなっていたかを見てみたいと思います。

下図はシミュレーションで使っている株式75%の商品の2007年1月から2020年6月までの価格の推移です。2008年のリーマンショックでは前年に付けた高値から約40%下落しました。



下図は、上記の商品を同じ期間毎月1万円づつ積立投資をしていた場合どうなっていたかを表しています。



2012年までは積立額を下回っていますが、その後投資額を大きく上回ってきていることがわかります。

こちらの図は積立推移の2007年から2013年3月までを拡大したものです。



2009年2月には、積立額26万円が評価額172,084円と大きくマイナスになってしまいました。その後も低迷が続けましたが2013年になりやっと評価額を上回り、その後も積立を継続した結果、161万円の積立合計は、2020年6月末時点で2,373,840円と約1.47倍に殖えています。

積立投資は毎月購入を継続するので購入価格が平準化し、積立当初のまだ保有口数が少ないうちは、値上がりや値下がりの影響が一括購入に比べ少なくなります。しかしながらある程度口数が貯まった後は値動きの影響を受けるようになります。

確定拠出年金のような老後準備の積立では、騰落率も大切ですが、いくら貯めているか、という口数（量）も同じくらい大切になります。特に積立期間の前半は口数（量）に着目してはいかがでしょうか？

今後も、●●ショック、バブルの崩壊、大災害、戦争、などがあると株式市場は大きく調整をします。そのようなことがあっても企業は成長を目指して活動するはずで。

日々のニュースや値動きの予想に注目するのではなく、口数を積み上げながら「世界中の企業の成長を待つ」、というスタンスでいることが積立投資のコツではないでしょうか？

ちょっと気になるお金のコラム

国民年金法が改正されました

去年の今頃は老後資金2000万円問題が大きな話題になりました。これをきっかけに老後資金準備を始めた方も多かったのではないのでしょうか？

その一方でなかなか手を付けられないという方も多いようです。早く準備を始める必要性は感じているが、

- 何歳まで生きているかわからない
- 国の年金がいくらぐらい出るのかわからない

といった理由から手を付けられない、という方が多いように感じます。

この5月、私たちのリタイアメントプランに大きな影響を与える「年金制度の機能強化のための国民年金法等の一部を改正する法律」が成立しました。

受取り開始時期の選択肢が拡大

改正法のなかで特に私たちの老後資金準備に大きく関わるのは、受給開始時期の選択肢の拡大です。

65歳を基準に前倒しで受取ることを「繰り上げ受給」、先延ばしにして受取ることを「繰り下げ受給」といいます。現在も「60歳から70歳の間」で選択できますが、これが「60歳から75歳までの間」に拡大します（基準の65歳は変更なしです）。

受取年金額は受取開始時期によって変わります。

「繰り上げ」をした場合は、1か月あたり0.5%減額、一方「繰り下げ」をした場合は1か月あたり0.7%増額になります（1か月単位で選択可能）。

仮に60歳で受取り開始すると、『 $0.5\% \times 12\text{か月} \times 5\text{年} = 30\%$ 』、と65歳から受取った場合に比べて30%減額になります。

一方、75歳まで「繰り下げ」た場合は、『 $0.7\% \times 12\text{か月} \times 10\text{年} = 84\%$ 』、と84%増額になります。

公的年金は終身年金（亡くなるまで受け取れる）なので「繰り下げ」を上手に利用できれば、増額した金額を生涯受取ることができます。

そうすると定年が65歳の場合、75歳までの10年分の生活費を働いたり貯蓄で賄えたりすることができれば良いので、目標が立てやすくなるのではないのでしょうか？

自分の年金額を確認しよう

84%殖えるのは良いけど、一体いくらになるのかが気になるころだと思います。実は年金ネットや誕生日に送られてくる年金定期便で将来受け取れる年金額の目安を確認することができます。

老後資金の準備を検討している方は、まずは、自分の年金はどのくらいになるのか確認するところから始めてはいかがでしょうか？

注) 受取年金額により税額は変わります



お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎていないか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を申し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒
<https://fp-matsumoto.com/contact/>



 **FAX:050-3730-0380**



個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内